

No

20

具体操作や念頭操作により、
10までの数の大小や順序を理解することができる。

… ものとかかわり …

いくつといくつ

数の合成と分解

4月

☆ 視点に関わる就学前の状況 ☆

- ・ 子どもたちは、直接、自然物や具体物にかかわり、その物の特徴を感じ取ったり量的感覚を言葉にしたりする中で、文字や数量に関心を持つようになってきている。(NO. 8)
- ※ (〇〇より) 多い・少ない・いっぱい・ちょっと・もう少し・同じなどの言葉の意味理解と使用
- ※ 以下のような具体操作の経験
 - ① 選ぶ・・・混ざった物の中から、クレヨンだけを選ぶ等
 - ② 分ける・・・葉っぱとどんぐりを分ける・シャベルとバケツを分ける・男の子と女の子に分ける等
 - ③ 並べる・・・同じ種類の物を並べる
 - ④ 数える・・・1対1対応で数える
- ※ 「長い・短い」「深い・浅い」「広い・狭い」「速い・遅い」「重ねる(積む)・並べる」「高い・低い」「前・後ろ」「右・左」「1番目・2番目」「まとめる」等の言葉の理解と表現
- ※ 1つ、2枚、3本、4人、5台、6匹、7羽、8杯、9番、10個等、日常生活で様々な数詞の活用

☆ 接続期の状況(算数の時間～) ☆

指 導 内 容	子どもの姿・子ども同士のかかわり
<p style="background-color: #00AEEF; color: white; padding: 2px;">5の合成と分解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初めにいくつといくつを合わせると5になるか(合成)を考え、「〇と□で5です。」という表現のしかたを学習する。 ・ 5の合成について理解できた後、5はいくつといくつに分けられるか(分解)を考え「5は、〇と〇です。」という表現のしかたを学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体物を使って、操作しながら答える。 A：表が2つで、裏は3つです。5は2と3です。 B：表は1つだから、全部で5つなので裏は4つだと思います。 C：おはじきがあればわかるけれど、おはじきがないといくつかわからないなあ。 D：自分の指を見ればわかるよ。 E：5は2と3ってどういうこと？ F：このときは指を2つかくすんだよ。のこりは3つだよ。 →指で5と2を出してたしてしまい、5と2でいくつと混同し、5は2と7という誤答をする子どもが多い。 →2と3で5という言い表し方との混同もある。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 5つのおはじきの表と裏の数を数えさせる。 「5は、いくつといくつですか。」 ・ 念頭で5を分けてみる。 <p style="text-align: center;">→</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の指を使うことは、具体物を半具体物に置き換える作業なので良さを認めて考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 視覚的には分かっているが、言語による理解が難しいことがある場合や合成と分解の考え方を混同している場合には、おはじきやブロックなど半具体物を使って、言語理解の誤りを修正しながら理解を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5の合成・分解の後、6・7・8・9・10について、5時間かけて順次学習していく。

☆ 接続期の指導場面における配慮事項 ☆

算数の場面とはいえ、言葉の感覚と算数的事象との一致が大きな問題となる。この時期の子どもたちは、就学前から算数の学習に関わる言葉を使いこなしている子どももあるが、具体的なイメージが定かでない子どももある。そこで、日常生活の中でも、算数的な操作に関わる言葉を繰り返し使用することにより、算数用語を獲得できるよう配慮している。授業の中では、おはじきやブロックを操作しながら説明するという活動を取り入れている。学習場面では、活動と共に繰り返し声に出して話すことにより言葉を獲得できるようにしている。